



# ポン出しプレイリスト規格書

JPPA-2-2004

第1版

2004年7月

社団法人 日本ポストプロダクション協会

BWF-J™ワーキング・グループ

<http://www.jppanet.or.jp>

---



---

 ポン出しプレイリスト規格書第1版発行にあたり

## はじめに

本書は通称“ポン出し”と呼ばれている“効果音出力”のためのプレイリスト（ポン出しプレイリスト）作成規格である。この規格に則ったポン出しプレイリストを作成することで、異なる機器間においても互換性のあるポン出し運用が可能となる。本規格がポン出し用プレイリストの標準化に寄与できれば幸いである。

2004年7月

社団法人 日本ポストプロダクション協会 技術委員会 オーディオ部会

BWF-J™ワーキング・グループ議長 丸谷 正利

## ワーキング・グループ参加メンバー

議長	丸谷 正利	(社)日本ポストプロダクション協会 技術委員会/オタリテック(株)
委員	谷地 章史	興和(株)
	飯田 宏二	オタリ(株)
	坂本 忠彦	(株)ディーアンドエムホールディングス プロフェッショナルビジネスカンパニー
	貞弘 仁志	フォスター電機(株)フォステクスカンパニー
	中沖 忠彦	パイオニア(株)
	由雄 淳一	パイオニア(株)
	松岡 良典	ティアック(株)
	藤井 泰彦	日本ビクター(株)
	山本 仁志	(社)日本ポストプロダクション協会 技術委員会/アオイスタジオ(株)
	新田 義武	(社)日本ポストプロダクション協会 技術委員会/(株)東京サウンドプロダクション
	辻本 廉	(社)日本ポストプロダクション協会 技術委員会/(株)NHKテクニカルサービス

## オブザーバー

	山上 順一	日本放送協会
	岡本 達哉	日本放送協会
	五味 良二	(社)日本民間放送連盟/エフエム東京
	青木 滋	(社)日本民間放送連盟/エフエム東京
	中村 広明	(社)日本民間放送連盟/J-WAVE
	中島 博和	(社)日本民間放送連盟/TBS R&C
	河相 陽一郎	(社)日本民間放送連盟/TBS
	赤石 精一	(社)日本民間放送連盟/TBS
	吾妻 光良	(社)日本民間放送連盟/日本テレビ
	廣瀬 雄一	(社)日本民間放送連盟/テレビ朝日
	渡邊 邦男	日本プロフェッショナルオーディオ協議会/新国立劇場
事務局	柴原 邦彦	(社)日本ポストプロダクション協会

以上

## 目 次

1. はじめに-----	4
2. 記述仕様-----	4
3. Playlist 仕様-----	4
3-1. 文字セット-----	4
3-2. 改行-----	4
4. ファイル構成-----	4
5. ディレクトリ-----	5
6. 絶対アドレスと相対アドレス指定-----	5
7. ポン出しプレイリスト・タグ-----	6
7-1. 予約タグの定義-----	6
7-2. ローカル・タグ-----	8
7-3. 構文チェック-----	9
8. 文書構造-----	9
9. ポン出しプレイリスト・サンプル-----	10

## 1. はじめに

通称“ポン出し”と呼ばれている“効果音出力”は6ミリテープレコーダーによる運用が中心であったが、デジタル録音が普及した現在ではディスクメディアによる運用も多くなっている。効率よい“効果音出力”のためには専用のコントローラとキー割付の為にリスト（ポン出しプレイリスト）を使用することが多いが、メーカー間、機器間の互換性がなく運用上の制約となっている。これを解消する手段の一つとして、ポン出しプレイリスト（PPL または ppl と略記する）の標準化を目指したものが本規格書である。この規格に則った PPL ファイルを作成することで、異なる機器間において互換性のある運用が可能となるであろう。

## 2. 記述仕様

専用の「ポン出しプレイリストマークアップ言語(PPLML)」を使用したプレーンテキスト文書とする。

## 3. PlayList 仕様

### 3-1. 文字セット

PPLML のコード体系は ASCII および SHIFT-JIS を使用する。使用可能な文字セットとデリミタ・コードを下記に示す。ファイル名に使用する大文字、小文字は区別しない。

①使用できる文字セット：

abcdefghijklmnopqrstuvwxyz

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ

0123456789

!"#\$%&'()\*~|'{}\*+;:][,./¥<>?\_@^-(ただし、ファイル名に使用できる文字は'-','\_'のみ)

漢字 (SHIFT-JIS)

②デリミタ・コード：

<space>, <tab>, carriage return <CR>, linefeed <LF>, formfeed <FF>

#### <解説>

ネットワークによる複数オペレーティング・システムとの接続やサーバー・システムとの接続を考慮しファイル名の大文字、小文字の運用方法をあらかじめ考慮しておく事が望ましい。また、Windows、Mac 系 OS と UNIX、Linux 系 OS では使用するコード体系が異なるので、ファイル名に日本語を使用すると文字化けを起こすことがある。互換性を考えた場合 ASCII コードによるファイル名が望ましい。

例) ABCD.wav、ABcd.wav、Abcd.wav、abcd.wav は Windows OS では同じファイル名として認識するが、UNIX/Linux OS では一般に異なるファイルとして認識する。

### 3-2. 改行

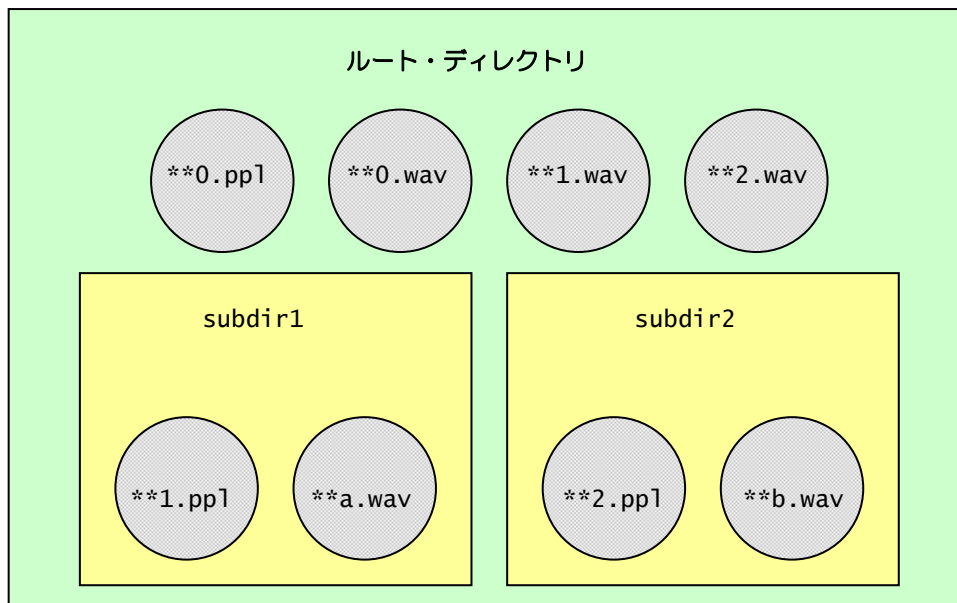
改行コードは<CR><LF>とする。

## 4. ファイル構成

“ポン出し”ファイルは PPLML で記述したポン出しプレイリスト (PPL) とその中で指定している音声ファイルで構成する。PPL ファイルは拡張子に“pp1”を使用する。音声ファイルは BWF-J ファイルを使用し拡張子は“wav”を使用する。それぞれのファイルは同じディレクトリにまとめられているのが望ましい。基本構成は図-1 (次ページ) のようになる。

#### <解説>

内容を変更した PPL ファイルを保存する場合、「保存」「セーブ」などの操作を行わなければその変更内容は保存されないようにするのが望ましい。これは PPL ファイルの変更を行う場合は意識的に行うことを前提とした考え方である。



図ー1 ファイル構成の基本概念

## 5. ディレクトリ

“ポン出し”を構成するファイルは、ルート・ディレクトリをデフォルト位置とする。複数プロジェクトをひとつのメディアに収録する場合は、それぞれ個別のディレクトリ（フォルダ）を作成し管理することが出来る。また、ひとつのディレクトリに複数 PPL ファイルの存在を可能とする。

### <解説>

MO などリムーバブルメディアを取り扱う機器では、メディアを挿入するとルート・ディレクトリに PPL ファイルが存在するか自動的に検索することが望ましい。

## 6. 絶対アドレスと相対アドレス指定

PPL の中では音声ファイルのアドレス指定に絶対パス指定と相対パス指定が使用できる。

- ①絶対パス指定：ルート・ディレクトリから使用する wav ファイルまでのパス名を直接記述する。
- ②相対パス指定：カレント・ディレクトリは“./”で表し、一つ上のディレクトリは“../”で表す。“../../”は二つ上のディレクトリを示す。また、“/”はルート・ディレクトリを示す。ディレクトリの変更は“./dir/file name”または“dir/file name”で指定できる。
- ③ファイル名のみで指定した場合は、カレント・ディレクトリに存在するファイルを示すものとする。

### <解説>

図ー1 を例に絶対パス指定と相対パス指定を説明する。

1. ルート・ディレクトリをカレントとして「\*\*0.pp1」を実行する場合、各ディレクトリにある wav ファイルの絶対パス、相対パス指定は次のようになる。（タグ<fname>については7項を参照）

- ①絶対パス指定の場合

ルート・ディレクトリの wav ファイルは <fname>\*\*0.wav</fname>、サブ・ディレクトリの wav ファイルは <fname>/subdir1/\*\*a.wav </fname>のように指定する。

②相対パス指定の場合

相対パス指定はカレント・ディレクトリより上位のディレクトリに対し有効なので、ルート・ディレクトリがカレントの場合は、サブ・ディレクトリに存在する wav ファイルを相対指定することは出来ない。「\*\*0.pp1」で指定できるのは同じルート上の wav ファイルのみとなる。記述方法は <fname>./\*\*0.wav </fname> や <fname>/\*\*0.wav</fname>となる。

2. サブ・ディレクトリ1をカレントとして「\*\*1.pp1」を実行する場合、各ディレクトリにある wav ファイルの絶対パス、相対パス指定は次のようになる。サブ・ディレクトリ2の場合も同様である。

①絶対パス指定の場合

ルート・ディレクトリの wav ファイルは <fname>/\*\*0.wav</fname>、サブ・ディレクトリ1の wav ファイルは <fname>/subdir1/\*\*a.wav</fname>のように指定する。サブ・ディレクトリ2の wav ファイルは<fname>/subdir2/\*\*b.wav</fname>のように指定する。

②相対パス指定の場合

ルート・ディレクトリの wav ファイルは <fname>/\*\*0.wav</fname> または <fname>./\*\*0.wav</fname>、サブ・ディレクトリ1の wav ファイルは <fname> ./\*\*a.wav</fname> または <fname> \*\*a.wav</fname>のように指定する。また、サブ・ディレクトリ1からサブ・ディレクトリ2のファイルを指定する（ディレクトリを変更して指定する）場合は<fname>../subdir2/\*\*b.wav</fname>のように指定する。

## 7. ポン出しプレイリスト・タグ

PPLML で使用するタグには“予約タグ”と“ローカル・タグ”がある。“予約タグ”は PPLML でその機能を定義しているタグである。“ローカル・タグ”はタグ名とその機能を一定のルールで自由に定義できるが、特定の機器でしか実行できない。

タグ名は半角小文字アルファベットを使用し、半角「<」と「>」で囲む。ただし、ローカル・タグ名は指定の記号とメーカーコード、アルファベットで構成する（ローカル・タグの項を参照）。大文字は構文エラーとする。タグは要素名の入った「開始タグ」と同一要素名の前に「/」を付けた「終了タグ」で構成する。「開始タグ」から「終了タグ」までの間を要素と呼び、要素の中に要素を入れることが出来る。

### 7-1. 予約タグの定義

#### <pp1>(必須)

ポン出しプレイリスト(PPL)文書であることを宣言するタグ。全ての PPL 要素は<pp1>と</pp1>の間に記述する。

#### <head>(選択、ただしローカル・タグ使用時は必須)

PPL 文書のヘッダ部を宣言する。ヘッダ部には<version>,<date>,<time>,<items>,<title>,<maker><product>,<comment>の要素を記述する。記述順は上記並びを推奨するが規定しない。

#### <body>(必須)

PPL 文書のプレイリスト本体であることを宣言するタグ。全ての body 要素は<body>と</body>の間に記述する。body は 0 個（空 item）または 1 個以上の<item>要素から構成される。

**<outnumber>(必須)**

<item>の構成要素の一つで、素材の KEY (釘) 割付番号と出力ポートを指定する。記述は「YYYY」の半角 4 桁固定である。

「X」は出力ポート番号の指定に使用する。ポート番号は「A,B,C,D」の4個がありこの中の一つを指定する。ポートの構成はステレオ(L/R ペア)である。

「YYY」は素材番号の指定に使用する。素材番号は「001」から最大「999」までの数値とする。ポート番号 A, B, C, D と素材番号は 001 から開始する。

例 1) <outnumber>A001</outnumber>=出力ポート A の 1 番 KEY に割り付けた素材

例 2) <outnumber>B001</outnumber>=出力ポート B の 1 番 KEY に割り付けた素材

**<解説>**

機器の持つ物理的な出力ポート数と<outnumber>で指定されている出力ポート数が異なる場合、適切なワーニング・メッセージを出すことが望ましい。また、物理的な“ポン出しKEY”の数以上の素材番号を使用している場合も同様の配慮が望ましい。

**<fname>(必須)**

<item>の構成要素の一つで、使用する音声素材ファイル名を記述する。パス名を含め 256Byte 以内。

例) <fname>abcd.wav</fname>、<fname>スタートBGM.wav</fname>など

実行する pp1 ファイルの存在する位置をカレント・ディレクトリとした場合、カレント以外のディレクトリに存在する wav ファイルにはアドレスの指定が必要である。アドレスの指定方法には絶対パス指定と相対パス指定が使用できる。(詳細は6項「絶対アドレスと相対アドレス指定」を参照。)

**<version>(選択)**

PPL 文書規格のバージョン番号を記述する。半角数字を使用し、Major version (MJ), Minor version (MI)各 2 桁以内であらわす。<version>MJ.MI</version>の記述方式とする。

例) <version>1.02</version>=メジャーバージョン 1、マイナーバージョン 02 の場合。

<version>10.05</version>=メジャーバージョン 10、マイナーバージョン 05 の場合。

**<date>(選択)**

PPL 文書の作成日を記述する。半角数字、ハイフンによる“YYYY-MM-DD”形式 10 桁表記とする。

例) 2001-11-22

**<time>(選択)**

PPL 文書の作成時間を記述する。半角数字、コロンによる“HH:MM:SS”形式 24 時間 8 桁表記とする。

例) 23:59:59

**<items>(選択)**

<body>に書かれている item 総数を記述する。半角数字 3 桁以内で表記し<body>の<item>数と一致しなければならない。<items>タグの数値と<body>の<item>数が一致しない場合は<item>数を優先する。

3 桁の数値は 0~999 の範囲とする。0 は<item>が無いことを示す。

例) 24、123、0 など

＜解説＞<items>に記述されている数値と<body>の<item>数が一致しない場合は、エラーメッセージを出しユーザーに注意を促すことが望ましい。

#### <title>(選択)

PPL 文書のタイトルを記述する。半角および全角文字を使用する。256Byte 以内。

例) 朝のニュース 11 月 22 日用

#### <maker>(選択)

PPL 文書を作成した機器の製造会社名を記述する。半角および全角文字を使用する。別の機器で再編集をした場合、その機器の製造会社名に書き換えてもよい。256Byte 以内。

#### <product>(選択)

PPL 文書を作成した機器名を記述。半角および全角文字を使用する。再編集をした場合、その機器名に書き換えてもよい。256Byte 以内。

#### <item>(選択)

1 個のプレイリストを宣言する。<item>と</item>の中に<outnumber>,<fname>要素と必要に応じて<comment>要素を記述する。

#### <sname>(選択)

<item>の構成要素の一つ。<fname>で指定した素材ファイルの素材名称を記入する。256Byte 以内。

例) <sname>ホール観客拍手音</sname>

#### <comment>(選択)

コメントを記述するタグで動作、操作に関係しない。<head>と<item>ブロック内で使用し日本語の記述が可能。256Byte 以内。

## 7-2. ローカル・タグ

#### <\_NN\*\*\*\*\*>(選択)

メーカーが定義したローカル・タグを示す。タグ名の 1 文字目“\_”はローカル・タグを示す記号である。2,3 文字目の“NN”はメーカー識別コードを示す。“\*\*\*…”の部分は半角 16 文字以内の英数字（記号は不可）による任意のタグ名称とする。

例) <\_01time>, <\_1dtime>, <\_a7time>など。“01”“1d”“a7”がメーカー識別コードを表す。

#### ＜解説＞

ローカル・タグは本規格にないタグを自由に定義し、使用するためのものである。ローカル・タグは必ずこの形式を使用すること。通常、ローカル・タグは特定メーカーの機器しか認識できない。

メーカー識別コードは専用の申請用紙に必要事項を記入し、社団法人日本ポストプロダクション協会 BWF-J ワーキング・グループ事務局へ申請することで取得できる。ローカル・タグを使用するメーカーは必ずメーカー識別コードを取得しなければならない。取得のための条件、制限はないが 1 社 1 識別コードとす



る。

### 7-3. 構文チェック

ローカル・タグを含め構文チェックでエラーとなったタグは実行対象としない。また、エラーとなったタグは自動削除しないこと。

#### <解説>

PPL ファイルを読み込んだときは実行前に構文チェックを行い、エラーが発見された場合ワーニング・メッセージなどでユーザーに注意を促すことが望ましい。

[ローカル・タグの構文チェック] そのタグが実行可能なものであればワーニングを出す必要はないが、実行不可能なタグ（自機で定義されていないタグ）の場合は適切なワーニングを出力するのが望ましい。

## 8. 文書構造

PPL 文書の基本構造は以下のようになっている。（図-2参照）

<pp1> ; “ポン出し”リストの宣言。ここから</pp1>までが PPL 文書となる。

<head> ; PPL 文書のヘッダ部。ここから</head>までの中にヘッダ情報<version>,<date>,<time>,<items>,<title>,<maker>,<product>,<comment>を記述する。

<body> ; “ポン出し”素材に関する記述。ここから</body>までの間に<item>を用いて使用する素材情報を記述する。<item>は複数記述が可能であり、また記述しなくてもよい（空<item>の PPL 文書）。

<item> ; 使用する素材のファイル名、出力ポート、必要に応じてコメントを記述する。</item>までの間に<outnumber>,<fname>,<comment>を用いて1個の素材に関する情報を記述する。

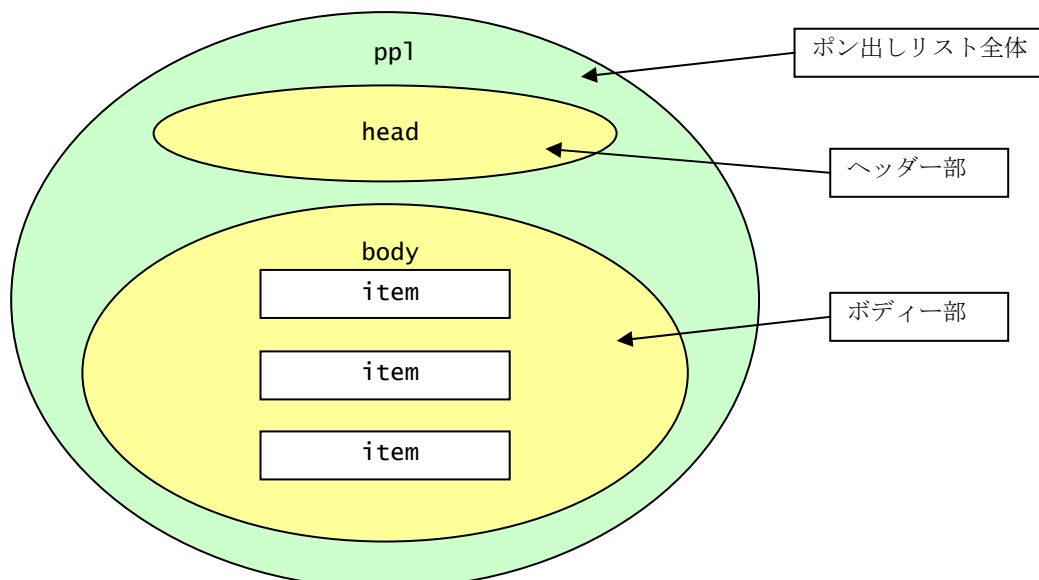


図-2 PPL 文書基本構造

## 9. ポン出しプレイリスト・サンプル

```
<pp1>
  <head>
    <version>1.00</version>
    <date>2001-11-22</date>
    <time>13:25:48</time>
    <items>5</items>
    <title>朝のニュース 11月22日用</title>
    <maker>ABC株式会社</maker>
    <product>ABC-2002</product>
    <comment>11月22日午前6時のニュース用ポン出しファイル</comment>
  </head>
  <body>
    <item>
      <outnumber>A001</outnumber>
      <fname>start_bgm.wav</fname>
      <sname>やさしさに包まれたなら</sname>
      <comment>番組テーマ曲</comment>
    </item>
    <item>
      <outnumber>B001</outnumber>
      <fname>../BGM1.wav</fname>
      <comment>ネット局朝の中継 BGM1</comment>
    </item>
    .
    .
  </body>
</pp1>
```

社団法人 日本ポストプロダクション協会  
〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目 18 番地 四谷一丁目ウエストビル  
電話 03-3355-6420  
FAX 03-3355-6421  
URL <http://www.jppanet.or.jp>  
2004 年 7 月発行